

## 論文要旨

本論文は、信頼、互酬性の規範、ネットワークといった人と人との関係に着目した概念であるソーシャル・キャピタルを定量的に捉え、それが地域に与える経済的な影響とその形成要因や世代間での継承を明らかにし、ソーシャル・キャピタルを活用した地域の再生方策を提示することを目的としている。全10章で構成されており、その概念や定量化の取組みを紹介しつつ地域経済への影響を検証した4章までの前半部分と、形成要因や世代間での継承について検証を行う後半部分に分けられる。

前半では、ソーシャル・キャピタルに関する概念や測定方法に関するこれまでの議論の紹介に続き、ソーシャル・キャピタルがもつ取引コストの低下、自発的な協調行動の促進といった効果が、経済活動の活性化・効率化、住民主体の地域づくりといった経路を通じて地域経済に正の影響をもたらす可能性を明らかにするため、マクロ・ミクロ両方の視点から、ソーシャル・キャピタルと地域経済との関わりについて定量的な分析を行っている。

具体的には、成長回帰（Barro Regression）と呼ばれる手法を用い、わが国における都道府県別の経済成長に与える影響を検証し、ソーシャル・キャピタルが経済成長に正の影響をもつことを明らかにしている。ミクロの視点からは、地価データを地域の価値の代理変数として利用した回帰分析を行い、住民等の自発的な協調行動のあらわれであるエリアマネジメント活動が地価に対して正の影響をもたらすことを示している。

後半では、全国レベルで行われたアンケート調査のデータをもとに OECD の提案に即した指標を作成し、ソーシャル・キャピタルの形成要因を分析するとともに、家族内での継承・共有と地域との関わりを考慮した世代間での継承メカニズムについての検証を行っている。

具体的には、全国的なアンケート調査の個票データをもとに、OECD が提案する「個人的ネットワーク」「社会的ネットワーク・サポート」「市民参加」「信頼と協調の規範」という4つの側面ごとに、主成分分析を用いて個人レベルでのソーシャル・キャピタルを指標化した上で、側面ごとの地域差や形成要因に関する定量的な検証を行い、側面ごとの地域差や形成要因の違いを明らかにしている。また、内閣府経済社会総合研究所「生活の質に関する調査」や、筆者らが独自に実施した全国的なアンケート調査の個票データをもとに、順序プロビットモデル等を用いた回帰分析を行い、ソーシャル・キャピタルの親子間での継承可能性と、継承における子供の頃の家庭内での教育・経験の重要性を指摘している。

ソーシャル・キャピタルに関しては、これまで概念の多様さや指標化の困難さから定量的な分析が行われることが少なかったのに対し、本論文では、様々なアンケート調査等によるデータを用いた定量化を行い、様々な実証分析を行っている。これらの分析結果から、地域政策におけるソーシャル・キャピタルの重要性のほか、地域のソーシャル・キャピタルを豊かにするには、ソーシャル・キャピタルを形成・継承しやすい環境を整備するなど次世代に継承しやすくするための取組みが必要であること等を明らかにしている。